

城東学園学校再編地区説明会 土方地区

日 時：令和6年9月19日（木）19:00～20:30

場 所：大東北公民館

参加者：16名（うち児童・幼児1名）

事務局：5名



1. 開会

○配布資料の確認

○主催者（教育政策課長）あいさつ

城東学園小中一貫校整備検討委員会は、第1回は7月9日(火)に開催、第2回は9月24日(火)開催予定である。小中一貫校整備に関してご意見をお伺いしたい。随時、情報発信していくため、市ホームページ等をご確認いただきたい。

2. 説明

○市担当者説明

- ①学校再編、小中一貫校とは？
- ②城東学園小中一貫校整備検討委員会
- ③小中一貫校の建設候補地
- ④公共施設の複合化
- ⑤開校までのスケジュールと進め方

3. 意見聴取

意見①・小中一貫校によるメリット。学校の面積的な規模はどれくらいを想定しているのか。右肩下がりでも人口が減少しているが何年度の児童生徒数で学校の規模を決めているのか。

- ・小学校はなくなると思うが、現在の中学校の建物はすべて取り壊すのか、あるいはその一部の建物を残して再利用するのか。
- ・中学校9学園で構想しているが、無視して中学校区を5つにして学園化を考えてみても良いのではないかと。コミュニティ、地域の付き合いもあるが、それぞれの地域の人口減少も加味しているのか。
- ・建設候補地が3つあるが、その場所が候補地として上がっている理由、またどのように今後報告、決定していくのか。

掛川市・小中一貫校として統合するメリットとして、子どもたちが能動的に学習する現在の多様な

学習体系への変化に対応することができる点である。現在の単学級の体制では子供達が能動的な学習をすることが難しい。

- ・学校の規模は、国の基準で決められており、学級数により規模が変わる。その基準を参考にすると18～27学級の規模で8,000～9,000平米程度になると考えられる。
- ・用地に関して新規で土地を獲得するのは財政的にも難しいということから、計画の中で既存の公共用地を再利用するという観点から現在の3つの候補地に絞られてきた。
- ・児童生徒数については、今年生まれた子が令和12年度に1年生となるため、これまでの実績値より、児童生徒数を想定し学校規模を決めている。将来推計は不確実な部分もあり、実績値を採用している。
- ・城東中学校の本校舎は老朽化のため、そのまま使うことは考えていない。新たな校舎を建設する予定。
- ・9中学校区を基本に学校再編を進めていく想定ではいるが、今後30年の計画のため、今後の状況の変化により、計画の見直しをする可能性もある。市の中心部は人口が増えている地区もあるが、周辺部は著しく減少している。現状では中学校区の再編は考えていない。
- ・建設候補地については基本的に既存の用地で考えることが前提。30,000平米程度の用地が必要なため城東中学校敷地を選定。委員より佐東小学校敷地の推薦があり、東京女子医科大学撤退により公共用地が空いていたため候補地に上がった。候補地の選定過程については地区回覧、ホームページにて随時お知らせしていく。

意見②・候補地はここ一年で決まっていくとお聞きしたが、本当か。中学校の跡地利用についてもお聞きしたい。

- 掛川市・候補地については2回目の検討委員会で委員の方たちに意見をお聞きし、3回目の10月開催予定の検討委員会で、ある程度候補地を絞っていきたいと考えている。
- ・跡地利用については異なる課の担当となるが、市民の意見を聞きながら決めていくことになると考えている。

意見③・城東中学校の崖地に関することはどうなっているのか。

- ・佐東小学校や城東中学校の候補地については利用しながらになるので、仮設費等もかかるため、東京女子医大の敷地の方が良いのではないかと。また、その周辺施設を移転させながら土地を拡大して、小中一貫校を中心に将来的に公共施設が集積して利用できるように開発していく方が良いのではないかと。

掛川市・崖地については危険という認識のため、城東中学校の崖地は避ける方向で考えている、仮設校舎もグラウンドを利用しながら、建設する予定である。

- ・女子医大の敷地は斜面地でどのようにグラウンドを作るかは課題である。公民館を複合する場合、来客用の駐車場の確保も必要なため、北運動場の土地確保等も含めて検討していきたいと考えている。

意見④・中地区、佐東地区、土方地区は範囲が広いので、スクールバスなどの登校手段も考える必要があると思うが、どのように考えているか。

- ・防災対策として、災害避難拠点として大きな体育館の整備、体育館にエアコンなども必要だと思うが、どのように考えているか。

掛川市・通学支援については国の基準があり、小学生4km、中学生6km以上がスクールバス、公共

交通機関の定期券等支給の対策を市の負担で行う必要がある。また、中学校については2 km以上の範囲で自転車通学を想定している。しかし、現状と比較し、登校距離が増える児童も多いことから、4 kmの基準では負担がかかるため、基準を見直す方向で検討している。参考までに、原野谷地区の場合3 km以上がスクールバスの範囲となっている。加えて、公共交通についても定期券の発券などを市で行うことを考えている。

- ・新たな小中一貫校ができれば広域避難所として指定されると思うが、小学校の広域避難所が無くなって良いわけではなく避難場所としては必要になってくる。今後、担当課が検討していく。工事期間中、広域避難所として、現在の小中学校が使えない場合、代替りの工場等を避難所として開放することを考えている。空調を現在の小中学校の体育館につけるのは断熱などの関係から難しいため、新しい体育館については空調を完備することを検討していく。
- ・先進地の小中一貫校では体育館が2つ整備されており防災での活用できるのでは。現在、普通教室のみエアコンが設置されているが、今後は特別教室にも設置されてくる。

意見⑤・防災の面でハザードマップを確認したところすべての候補地が土砂災害の地域に少なからず被っている。土砂災害の対策はどのようなことを考えているか。

- ・児童生徒数の減少傾向がある中で学校の大きさが余剰になっていく可能性についてはどのように考えているか。

掛川市・土砂災害については該当箇所を避けて校舎を建てていく。また、該当箇所をコンクリートで固めたり、上部の土砂を取り除いたりする方法が考えられる。

- ・人口減少についてはその時々状況によっても変わるため、その時点ごとに対策を考えていくということになる。
- ・この4年間はコロナの関係で城東地区だけでなく掛川市、全国的にも出生率が下がっている。このあと元に戻っていくか時間をかけて見守る必要がある。学校再編計画も定期的に見直しを掛けていく予定。

4. 閉会

以上